

血管内治療

血管内治療とは、皮膚を切ることなく、血管の中からアプローチする新しい手術法です。最初に、足の付け根の動脈（大腿動脈）にシースと言われる短いチューブを入れ、その中を通してガイドカテーテルを頸部の動脈まで誘導します。さらにガイドカテーテルの中に非常に細いマイクロカテーテルを通して病変部に到達して治療を行います。この治療法の利点は、開頭手術に比べて身体への侵襲が少ないこと、開頭手術での治療が困難な部位でも到達が可能であること、局所麻酔でも可能であり、高齢者や、心臓や肺の悪い人などには有用な方法です。

治療対象は脳動脈瘤、脳動静脈奇形、硬膜動静脈瘻等の出血性病変や、脳梗塞、そして頭や頸部の血管の狭窄症が主な疾患です。カテーテルやコイル、ステントなどの治療器具は近年めざましい進化を遂げており、対象疾患が拡大していく傾向にあります。

